



北海道の 「未来」に挑む

「強みをつよさに変える、共創イノベーション」

IT・テクノロジーと、教育・研究の融合は、北海道にどのようなイノベーションを興すのか？

株式会社HBA、北海道大学のトップが、

それぞれの強み、両者の連携が

北海道にもたらすつよさについて語ります。



寶金清博（ほうきん きよひろ）
1954年、北海道生まれ。北海道大学医学部卒業後、同大学脳神経外科に入局。脳神経外科医として、国内、欧米で診療や研究の経験を積む。同大学病院長などを経て、2020年から現職。

白幡一雄（しらはた かずお）
北海道芦別市出身。美唄育ち。北海道大学工学部を卒業後、1987年に北海道ビジネスオートメーション株式会社（現：株式会社HBA）に技術者として入社。89年経営企画室所属となり、2024年から現職。

撮影：北海道大学附属図書館「メディアコート」

1964年から、 北海道の DXを推進

白幡：私は北海道大学工学部を卒業後、当社に入社しました。北大は、私が在籍していた頃と比べると、ずいぶん進化しましたね。

寶金：農学部から始まった北大も、いまでは国立大学最多の12学部を持つ基幹総合大学です。鈴木章名誉教授がノーベル賞を受賞したように、世界的に高い評価を得ている化学の領域、北海道のIT業界に優秀な人材を多数輩出してきた工学部、スマート農業に先鞭をつけた農学部、道内最大の病院を持ち、医療と研究を結んだ医学部など、どの学部も輝いています。

白幡：当社は、1964年、道や市町村の受託計算を主要事業として創業しました。現在は、システムインテグレー

株式会社HBA 代表取締役執行役員社長

白幡一雄



国立大学法人 北海道大学 総長・医学博士

寶金清博



課題先進地域 北海道で見つけた 解決策を媒介に世界へ

寶金：ITの大きな特徴は、距離を縮めることだと思います。オンライン授業や遠隔医療はわかりやすい例です。その点からも、広大な土地の上に市町村が分散する北海道は、ITととても相性がいいと思います。

白幡：遠隔医療が地域の医師不足をカバーするように、IT活用によって地域の課題を解決でき、ひいては地域のイノベーションを興せるかもしれません。昨年、当社はIT技術やDXのノウハウを生かし、地域活性化と町民サービスの向上に貢献しようと、鹿追町と包括連携協定を結びました。北大生の皆さんと鹿追町の課題をテーマにワークショップを行うなど、具体的な取り組みを進めています。こうした取り組みから得た知識や技術などを製品やサービスに換えることができれば、同様の課題を抱える国内外に



HBAが目指す「つよい会社」像を語る白幡社長

世界と 戦っていくための 産学連携とは

白幡：当社では、産学連携についても取り組みを深めようと動いています。例えば農業分野では、草を活用したバイオ燃料の生産および当社データセンターでの活用などが挙がっていて、こうしたテーマなら北大と組むことができるのではないかと期待しています。また、北大生の皆さんとの連携であれば、インターンシップに限らず、皆さんに我々の現場をみてもらい、協働できることを探り、それを研究室に持ち帰ってもらうところから共同研究を始めるのも一案と考えています。

寶金：なるほど、プランが具体的ですね。少し先の話になりますが、北海道に、業種・業界を越えて複数の企業や団



世界が注目する、北大農学部のスマート農業研究

世界・日本・北海道の 課題とシンクロ しながら成長する

白幡：当社はタイのバンコクに子会社があるほか、あるシステム開発の関係で社員25名ほどがドイツに長期駐在したことがあります。外国人社員が在籍していた時期もありますが、残念ながら、今はおりません。昨年11月に東京で開催されたJISA（情報サービス産業協会）とASOCIO（アジア・オセアニアコンピュータ産業機構）が開催した「ASOCIO Digital Summit 2024」に参加したところ、アジア諸国はAIへの危機感から日本企業と協力体制を組みたい、こちらは人的リソースやマーケティングの面でアジア諸国と組みたいと、意見が交わされていたことが印象的でした。



寶金総長からは、AIとの向き合い方の提言も

体が連携し、それぞれの強みを生かしながら新しい事業を展開し、共存共栄していくシリコンバレーのような仕組みが半導体分野でできたのでしょうか。その時、私たちがタッグを組めば、HBAさんはとても大きなミッションを果たすことになると思います。

白幡：いい案ですし、心強いです。北大はRapidus、ベルギーのimecアイメックとも連携していますね。

寶金：Rapidusとは、半導体産業を通じた科学技術力の向上、および人材の育成を目指すことを目的とする包括連携協定を締結しています。また、ナノエレクトロニクスとデジタル技術における世界有数の研究イノベーション拠点であるimecとは、半導体分野における連携を検討していくための合意文書に署名しました。世界の大学は、グローバルコアを作りだしています。HBAさんにも、こうしたコアに加わって、世界で戦ってほしいです。我々もそうした方向性を持った企業のサポートができればと考えています。北大の大学院生の4人に1人は外国人で、外国人留学生の研究指導は英語で行っています。国際化の面では、少なからずお力になれると思います。



「北海道大学 創造的人材育成特別講義」で登壇する白幡社長（2024年11月15日 北海道大学工学部）

寶金：2030年頃、世界のGDPの半数近くをアジアが占めるとの予測があります。アジアは欧米と肩を並べる経済圏になるわけ、その圏内にあることは非常に幸運であり、大きなチャンスです。しかもアジア諸国は北海道への興味、関心も高いので、我々には有利です。白幡：「北海道から世界へ」は、掛け声ではなく現実になっていますね。これまで当社は、良い会社を目指してきましたが、私が社長になってからは、「つよい会社」になろうと社内に呼び掛けています。一人一人の技術力、当社独自の特徴をつよさとし、それを強くアピールできる北海道トップクラスの企業として、海外へ出ていくことが目標です。

寶金：今年、アメリカが新政権になるなど、国際的な流動性が極めて高い年になると思います。私はこのことを大きなチャンスと見るべきだと考えています。北大も様々な課題を抱えています。世界・日本・北海道の課題と上手にシンクロナイズしながら、それをエネルギーに換えて成長する一年にしたいと思っています。共に頑張りましょう。

白幡：示唆に富んだお話をありがとうございました。

株式会社HBA

1964年に札幌で誕生した、ITソリューション企業。東京（品川）、大阪、山梨に事業所を持ち、業界・業種問わず全国各地の企業や自治体などのニーズに合ったサービスを提供。お客さまの課題を解決することで社会全体の課題を解決し、「だれもが幸せな社会」を実現することをパーパスとして掲げている。2024年に創立60周年を迎えた。



国立大学法人 北海道大学

2026年に創基150周年を迎える国立総合大学。1876年開校の札幌農学校を起源とし、建学の精神である「フロンティア精神」、「国際性の涵養」、「全人教育」及び「実学の重視」を今に受け継ぐ。創基150周年に向け「光は、北から」を掲げ、「北から新しい世界を作っていく」決意とともに、唯一無二の「比類なき大学」として、世界の課題解決に貢献する大学を目指す。

HBA×北大
対談動画は
こちら

